

6. 臨床心理士

小池 真規子

(目白大学大学院 心理学研究科, 臨床心理士)

はじめに

臨床心理士は、内閣府が認可する公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の実施する試験に合格したものに交付される資格である。1988年より資格認定が始まり、2014年4月現在28,080名が認定されている¹⁾。臨床心理士資格試験を受験するためには、学校教育法に基づく指定大学院(第1種、第2種)または専門職大学院^{*1}を修了することが求められる^{*2}。2013年12月末現在、

第1種指定150校、第2種指定12校、専門職大学院6校がある¹⁾。

臨床心理士養成大学院における教育は、表1のようなカリキュラムにより行われている²⁾。心理職が専門とする面接、査定(心理テスト)を中心に、職域となる医療・保健、教育、福祉、司法・矯正、労働・産業等の心理臨床について幅広く学ぶ。医療に関しては、精神医学については基礎知識を学び、精神科クリニックなどにおいて実習する機会をもつことが多いが、がんその他の身体疾

表1 臨床心理士養成大学院カリキュラム

指定大学院 (第1種)	専門職大学院
26単位以上	44単位以上
〔必修科目〕16単位以上 臨床心理学特論 臨床心理面接特論 臨床心理査定演習 臨床心理基礎実習 臨床心理実習	〔基幹必修科目〕 臨床心理学原理, 臨床心理査定学, 臨床心理面接学, 臨床心理事例研究 〔展開必修科目〕 臨床心理地域援助学, 臨床心理調査研究, 総合事例研究
〔選択科目〕10単位以上(各群2単位以上) A群 心理学研究法, 心理統計法, 臨床心理学研究法 B群 人格心理学, 発達心理学, 学習心理学, 認知心理学, 教育心理学など C群 社会心理学, 家族心理学, 犯罪心理学, 臨床心理関連行政論など D群 精神医学, 心身医学, 神経生理学, 障害(児)者心理学, 精神薬理学など E群 投影法, 心理療法, グループ・アプローチ, 臨床心理地域援助など	〔選択科目〕 認知行動論, 生涯発達論, 人間関係論, 適応障害論 障害心理臨床論, 犯罪心理臨床論, 臨床心理関連行政論, 心身医学, 臨床精神医学, 臨床精神薬理学 〔臨床実践事例特修科目〕 (教育・医療・子ども・成人など) 〔臨床実践技能特修科目〕 (査定・面接・理論・技法など)
修士論文	

(公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会 監修: 新・臨床心理士になるために(平成26年版). 2014)

^{*1} 第1種指定大学院および専門職大学院修了者: 終了後に実施される直近の資格試験を受験できる。第2種指定大学院修了者: 終了後1年以上の心理臨床実務経験を経た後に受験可能となる。

^{*2} 諸外国における教育歴・心理臨床歴を有するものおよび医師免許取得者は特例あり。

	全体	都道府県	地域	都道府県独自	指定なし	1001床以上	501～1000床	0～500床
いる	268	28	163	48	29	16	126	126
いない	217	23	86	47	61	9	70	138
「いる」の割合	55.3%	54.9%	65.5%	50.5%	32.2%	64.0%	64.3%	47.7%

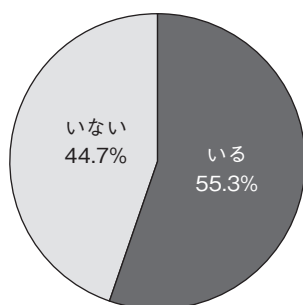


図1 臨床心理士（専従・専任・兼任のいずれか）がいる施設・いない施設
（特定非営利法人日本緩和医療学会 [http://www.jspm.ne.jp/]）

患について専門的に学ぶ機会は少ないといえる。

臨床心理士の資格を取得したものは、学会や研修会への参加など、指定された条件を満たしたうえで5年ごとの更新が義務づけられている。

ホスピス緩和ケアに携わる臨床心理士の実態

臨床心理士が働いている領域は、医療・保健、教育、福祉、司法・矯正、労働・産業、私設心理相談、大学・研究所など多岐にわたっている³⁾。2011年に一般社団法人日本臨床心理士会が実施した「臨床心理士の動向調査」によると、全対象者の58.3%という回収率ではあるが、臨床心理士が最も多く勤務している機関は病院・診療所であった（全回答者数の35.5%）⁴⁾。また、2014年4月に日本臨床心理士会医療保健領域委員会が医療保健領域機関に勤務する臨床心理士を対象に実施した調査では、勤務先診療科では精神科が最も高値であるが、がん・緩和ケアに関係する臨床心理士は前回調査時（2012年）に比べ増加傾向がみられる⁵⁾。特定非営利法人日本緩和医療学会の2012年度緩和ケアチーム登録によると、485の登録のうち、メンバー構成に臨床心理士が加わっているのは全体の55.3%である（図1）⁶⁾。

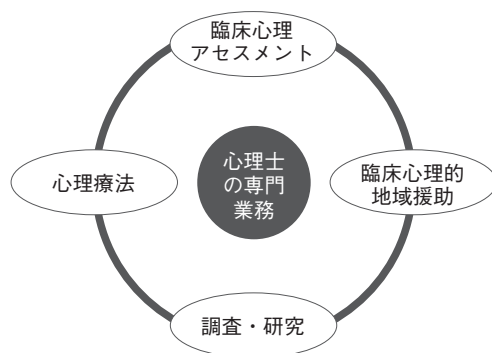


図2 臨床心理士の専門業務

（平成25年度厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業「緩和医療に携わる医療従事者の育成と技術向上に関する研究」班：がん医療で心理士と一緒に働く医療者へ、2014）

役割と実践の特徴

臨床心理士には図2に示すような4つの専門業務が求められている^{1,2,7)}。

① 臨床心理査定（アセスメント）

臨床心理査定とは、心理面接や種々の心理テストを通じて、個々人の独自性、個性の固有な特徴や問題点の所在を明らかにすること、同時に、心の問題で悩む人々をどのような方法で援助するのが望ましいかを、他の専門家とも検討し、選択実践することを意味する。心理テストを用いる場合には、導入の仕方、テストの選び方、テスト

バッテリーの組み方、判断の基準、結果を報告する際の焦点など、対象者および臨床領域に適した方法の検討が求められる。

がん医療においては、アセスメントのための心理学的な基礎知識とスキルをもつとともに、がんという病気、その臨床経過、治療、疾患に伴う身体症状・精神症状など、医学的な知識について学び、医師、看護師ほか他職種と相談・連携をとりながら、包括的なアセスメントを心がける⁸⁾。

② 心理面接

心理カウンセリング・心理療法といわれるもので、他の専門業務の基盤となる基本的な人間関係技能であるとともに、臨床心理士の中心的な臨床実践技能である。クライアントの課題に応じてさまざまな臨床心理学的方法を用いて、心理的な問題の克服や困難の軽減に向けて支援を行う。心理療法にはさまざまな方法があるが、がん医療においては支持的療法により、患者の思いを批判、解釈することなく、できるかぎり理解しようと努力し、支持し続けることに努める。対話による面接だけでなく、リラクゼーション技法を用いることもある。一般的に心理面接は個室にて毎週（隔週）何曜日の何時から何時といった構造的に行われるが、がん医療においては、外来受診時や入院中であれば患者の身体症状・精神症状など、また他職種からの情報を考慮し、柔軟に対応することが多い。患者だけでなく、必要に応じて患者と家族、家族のみなどの面接も行う。

個別面接だけでなく、たとえば同じ疾患の患者を対象としたグループ・アプローチなど、集団療法を行うこともある。

③ 臨床心理的地域援助

悩みの解決のためには、個人だけではなく、その人を囲む環境への働きかけや情報整理、関係の調整を行ったり、他の専門機関と連携することもある。患者・家族への直接的な働きかけだけでなく、多職種と連携し、患者・家族のもつ問題への対応を行っていく。今後、在宅療養の患者が増え

ることが予想されることから、在宅における臨床心理士の支援の可能性を考えていく必要がある。

④ 研究活動

臨床心理士による研究活動は、対象者に関する認識を深め、臨床心理士自身の経験をとらえ直し、他の臨床心理士と経験や知見を相互に検討し、分かち合うことによって、臨床心理士個人の臨床実践技能と認識に公共性、社会的現実性を与えていくものとされる。臨床心理実践倫理を踏まえた調査的・数量的な研究を行う専門資質を備えるとともに、専門性に固有で独自の研究方法である事例研究においても、臨床実践における研究的視点をもつことで、単なる1事例ではない発展がみられる。

臨床心理士は、これらの専門業務のすべてにおいて、バランスよく総合された力を発揮できるようになることが必要である。

関わっている学会・研究会の動向

先に述べたように、臨床心理士はその養成課程において医学的知識、特になんかの身体疾患について学ぶ機会がきわめて少ない。そのために、がん医療に従事する心理士にとって、がんについての医学的基礎知識を学ぶこと、がん患者・家族の心身のありようについて学ぶ場所が必要となる。

日本サイコロジック学会では、心理職を対象とした教育カリキュラムを策定し、スタンダードコース、アドバンスコースⅠ、アドバンスコースⅡの3コースからなる研修会の体制を整えている⁹⁾。

心理学関係の学会として日本心理学会、日本心理臨床学会、日本カウンセリング学会などがあるが、これらの学会においてがん医療に関する研究発表は増えてきているものの、がんについて学ぶ継続した研修会は行われていない。

そのような中、がん医療に携わってきた臨床心理士たちが独自に研究会などを行うようになってきている。

パリアティブケア研究会^{*3}は全国規模のメー

^{*3} パリアティブケア研究会（PCCP）の問い合わせは、広島大学大学院教育学研究科附属心理臨床教育研究センター 黄 正国先生（kouseikoku@hiroshima-u.ac.jp）まで。

リングリストを立ち上げ、メンバーによる事例検討会を東京、愛知、中国四国、九州などの地域で実施し、年に1回はこれらの地域合同の事例検討会を実施している。パリアティブケア研究会のメンバーは、日本心理臨床学会総会開催時には、がん医療におけるさまざまなテーマの自主シンポジウムを企画し、大学院学生をはじめ毎年多くの参加がある。

がん緩和ケアと HIV 臨床に携わる心理職有志による由布院アカデミア¹⁰⁾では、がん・エイズを含む身体疾患の医療において5年以上の経験がある心理職に向けた基礎編・応用編の研修会の活動を始めている。

活動・実践の今後の見通し

岩満ら¹¹⁾によると、緩和ケアチームの一員である医師・看護師が心理士に求めるものに、緩和ケアチーム内での連携およびそのための心理士としての独自性がある。心理士としての知識・心理療法の技術を身につけると同時に、心理士としての視点から他職種との十分なコミュニケーションを意識していくことが必要である。

また岩満ら¹¹⁾によると、心理士による「医療者のサポート」も求められている。心理士が患者や家族を直接支援するだけでなく、対応が難しい患者や家族にどのように接していったらよいかなどのコンサルテーションや、バーンアウト状態の医療者の心理的支援を担う役割も進めていきたい。

おわりに

臨床心理士は現在、医療・教育・産業・司法な

ど広い領域で活動を行っているが、心理職の国家資格化が進められており、その推移を見守る必要がある。

文 献

- 1) 公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会〔<http://jcbcp.or.jp/>〕(2014年11月13日アクセス)
- 2) 公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会 監修：新・臨床心理士になるために(平成26年版)。誠信書房、2014
- 3) 一般社団法人日本臨床心理士会〔<https://www.jscpp.jp/>〕(2014年11月13日アクセス)
- 4) 一般社団法人日本臨床心理士会：第6回「臨床心理士の動向調査」報告書、2012
- 5) 一般社団法人日本臨床心理士会 第2期後期医療保健領域委員会：2014年度医療保健領域に関わる会員を対象としたウェブ調査(2013年度状況)結果報告書、2014
- 6) 特定非営利活動法人日本緩和医療学会〔<http://www.jspm.ne.jp/>〕(2014年11月13日アクセス)
- 7) 平成25年度厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業「緩和医療に携わる医療従事者の育成と技術向上に関する研究」班：がん医療で心理士と一緒に働く医療者へ、2014
- 8) 小川朝生 著、小川朝生・内富庸介 編：心のケアの考え方。これだけは知っておきたいがん医療における心のケア。創造出版、p.36-52、2010
- 9) 日本サイコオンコロジー学会：活動紹介—心理職の教育・研修。〔<http://jpos-society.org/activities/psycho.php>〕(2014年11月13日アクセス)
- 10) 由布院アカデミア〔<http://yufuin-academia.com/>〕(2014年11月13日アクセス)
- 11) 岩満優美、平井 啓、大庭 章、他：緩和ケアチームが求める心理士の役割に関する研究—フォーカスグループインタビューを用いて。Palliat Care Res 4 (2) : 228-234, 2009